

教員養成のための被服製作実習によるミシン縫製技術習得の効果 —初等教員養成課程家庭選修における被服製作教育—

Effect of Learning Machine Sewing Skills by Practicing the Clothes-making
Projects for Elementary School Teachers Training Course of University
— Educational Program of Clothes-making for Home Economics Class —

長 山 芳 子

Yoshiko NAGAYAMA

福岡教育大学教育学部

(平成27年 9 月30日受理)

Abstract

The purpose of this research was to develop the educational program of clothes-making for Home Economics class in teacher training course of university. By learning to making various clothes in each grade at university, self-evaluation of acquiring sewing skills especially the curve sewing and the overlock-stitching were higher on irrespective of experience with clothes-making before matriculation. Half of the students began to have confidence in the support and advice to others.

The skills and self-evaluation of machine sewing can be said that it will be improved by practicing the clothes-making repeatedly for university students.

Keywords : ミシン縫製技術 sewing skills by machine, 被服製作実習 clothes-making project, 被服製作教育 clothes-making education, 教員養成 teacher training of university

1. 緒言

小学校・中学校家庭科において、ミシン縫いによる製作・活用、布を使った物の製作を指導することになっており^{1) 2)}、家庭科を担当する教師の被服製作に関する知識と技術は不可欠である。著者は教員養成のための被服製作教育の質向上を図るため、既報では家庭科を選修としない初等教員養成課程学生は、家庭科の授業でミシンを使うことについて好印象のみをもった学生がいる一方で、不得意、針が怖いなど悪印象だけをもっている学生が4割近くいる状況であったが、ミシンを使ったハンカチ袋づくり製作実習を経験することにより、ミシン操作の自己評価が高まるとともに、製作実習経験が乏しい学生に対してもミシン操作技術を高める効果があることを報告した³⁾。

本研究では、初等教員養成課程において家庭科を選修する学生に対して、ミシン縫製技術育成のための被服製作指導を探ることを目的として、被服製作実習によるミシン操作技術の習得効果について検討した。さらに、収集資料の種類と項目内容についても検討することとした。

2. 方法

2.1 調査時期と対象学生

調査時期は2008年4月～2011年8月とした。対象学生は初等教員養成課程家庭選修2年生とし、他選修等からの受講生は除いた。有効回答は83人であり、2011年度男子1人以外は、全て女子であった(表1)。

2.2 授業科目

授業科目は、当該課程の選修専門科目「被服学」とした。被服は、素材とデザインと縫製の総合力によって作られ、着ることによって完成される。この授業の目標・概要は前半では、被服学の基礎知識として、被服の表現性、着用目的に合った被服材料の選択、縫製技術について、実習を交えて講義を行った。後半では、これらの知識を被服製作技術と連携させ、各自の着用目的にふさわしい素材を選択して、被服製作実習を行うこととした。この科目は中一種免・高一種免（家庭）の指定科目であり、教育現場で被服実験・被服製作実習が指導できる基礎的知識と基礎的技術の習得も目標とした。

2.3 授業内容

授業形式は、講義・実習形式 180 分間 15 回であり、内容は前半 7 回が被服学講義、後半 7 回はシャツ・ブラウスの製作実習、最終 1 回は製作品タグづくり、ミニファッションショーである。本研究対象は、後半 7 回の製作実習とした。

2.4 授業計画

授業担当者および調査者は著者とし、教室は被服構成実習室であり、縫製ミシンは受講学生に 1 台ずつ使用できるように設備している。

本研究対象としたシャツ・ブラウスの製作実習の授業内容 7 回分は、次のとおりである。

第 8 回：(1) デザインを考える (2) 製作計画・被服素材の選定・見積もり、第 9 回：(3) 被服製作実習を安全に行うために (4) 型紙選択、型紙配置・裁断、しるしつけ (5) 仮縫い、第 10 回：(6) ミシン操作の基礎 (7) 本縫いー身頃・衿づくり、第 11 回：(8) 本縫いー衿つけ、第 12 回：(9) 本縫いー袖づくり、第 13 回：(10) 本縫いー袖つけ・裾、第 14 回：(11) ボタンホールとボタン付け (12) 仕上げ

2.5 調査資料と内容

①「被服製作実習に関するアンケート」

ミシン操作に関する本授業履修前の状況を把握する資料として、「被服製作実習に関するアンケート」（以下、「アンケート」）⁴⁾を作成した。

「アンケート」の内容は、被服製作経験と縫製技術自己評価についてであり、調査項目は小・中・高等学校各学校段階における家庭科・他授業・自宅等での製作品、家庭科でのミシン学習、ミシン操作の感想、縫製ミシン操作 10 項目（ミ

シン各部名称、ミシンの針の取り替え、上糸かけ、ボビンへの下糸巻き、ボビンのミシンへの取付け、糸調子の調節、縫い目長さの調節、返し縫い、曲線縫い、ボタンホール縫い）、ロックミシン操作 5 項目（各部の名称、ミシン針の取り替え、糸かけ、糸調子の調節、ロックミシンかけ）などとした。

②「シャツ・ブラウス製作実習レポート」

製作実習終了後に「シャツ・ブラウス製作実習レポート」（以下、「履修後レポート」）の提出を課している。

この「履修後レポート」には、デザイン、材料、品質表示、製作実施記録、自己評価および感想（学んだこと・困難や失敗したこと・今後にどう生かすか、自己採点など）などを記載している。

このうち、本調査に使用した項目は、自己採点部分である。縫製ミシン操作 10 項目、ロックミシン操作 5 項目の計 15 項目は、「アンケート」と同じ項目とし、ミシン操作の初心者への支援・アドバイス、作品の出来映え、満足度などの項目とした。

なお、資料収集に際し、「アンケート」は実習授業の参考にすることおよび成績評価の対象ではないこと、「レポート」の自己採点項目についても、成績評価の対象ではないことを明記した。

2.6 調査方法Ⅰ

調査は、2008 年度～2011 年度に開講した「被服学」であり、本授業科目の初回に「履修前アンケート」調査を実施した。シャツ・ブラウス製作実習後の状況は、「履修後レポート」の自己採点部分を用いることとし、本授業科目終了後に収集した。

2.7 調査方法Ⅱ

調査は、2011 年度「被服学」であり、調査方法Ⅰと同様に、「履修前アンケート」の実施と、「履修後レポート」自己評価部分を収集した。さらに、「アンケート」調査は、当該受講生を対象に、大学入学直後の 2010 年 4 月（以下、「入学時アンケート」）、本授業科目履修後の 2011 年 8 月（以下、「履修後アンケート」）も実施した。

3. 結果

3.1 調査対象者の被服製作学習経験

対象学生は表 1 に示すとおり、大学入学後から

表1 対象学生とミシン学習経験

開講年度	対象者 (人)	有効回答 (人)	大学入学以前の家庭科授業 におけるミシン学習経験 (%)			大学入学後・本授業履修前 の被服製作実習経験 (%)	
			小学校	中学校	高等学校	手縫い ¹⁾	ミシン縫い ²⁾
2008	20	18	100.0	44.4	55.6	88.9	100.0
2009	20	20	95.0	63.2	35.0	100.0	100.0
2010	23	23	91.3	56.5	43.5	100.0	100.0
2011	22	22	100.0	72.7	45.5	100.0	100.0
計	85	83	96.4	59.8	44.6	97.6	100.0

1) 手縫いによる浴衣製作

2) ミシン縫いによるハーフパンツ製作

表2 履修前アンケートで、縫製ミシン操作が「できる」と回答した割合 (単位：%)

操作項目	本授業科目の開講年度				
	2008 n=17	2009 n=20	2010 n=23	2011 n=22	計 n=82
1. ミシン名称	17.6	35.0	4.3	45.5	25.6 ** ¹⁾
2. ミシン針の取り替え	35.3	35.0	56.5	63.6	48.8
3. 上糸かけ	94.1	100.0	95.7	95.5	96.3
4. ボビンへの下糸巻き	88.2	100.0	95.7	100.0	96.3
5. ボビンのミシン取り付け	88.2	100.0	100.0	86.4	93.9
6. 糸調子の調節	35.3	95.0	82.6	86.4	76.8 ***
7. 縫い目長さの調節	47.1	80.0	91.3	90.9	79.3 ***
8. 返し縫い	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
9. 曲線縫い	82.4	75.0	69.6	68.2	73.2
10. ボタンホール縫い	0.0	5.0	0.0	4.5	2.4

1) 開講年度間の有意差 ***: $p < 0.001$, **: $p < 0.01$

当該授業科目を2年生で履修するまでの1年間に、前期選択科目において手縫いによる浴衣製作、後期教科専門必修科目ではミシン縫いによるハーフパンツ製作を行っていた。初等教員養成課程において、家庭科を選修していない学生3割以上が授業で布を使った製作経験がなかった³⁾のに比べ、対象学生は、大学入学後の被服製作経験はあると言える。

対象学生が大学入学以前に、家庭科でミシンを使った学習経験の記憶は、小学校96.4%、中学校59.8%、高等学校44.6%であり、学校段階が上がるとその学習経験は半減していた。製作品は、小学校段階ではエプロンとナップサックが多く、中学校段階ではパンツ、エプロン、ウォールポケット、ブックカバー、雑巾など様々であり、特に、高校生段階ではコースターからジャケットまであり、使用した製作技能も幅広いと言える。

3.2 本授業科目履修前のミシン操作状況

調査方法Ⅰの「履修前アンケート」回答選択肢は、縫製ミシンおよびロックミシンの各部名称では、(全部言える・ほとんど言える・少し言える・言えない・忘れている・やったことがな

い)、縫製ミシンおよびロックミシンの操作項目では、(できる・説明書を見ればできる・できない・やったことがない・分からない)とし、該当する一つを回答させた。

これらの回答について、各部名称は「全部言える・ほとんど言える」「少し言える」「言えない・忘れている・やったことがない他」の3グループ、ミシン操作は「できる」「説明書を見ればできる」「できない・やったことがない・分からない」の3グループに再割り当てした。

3.2.1 縫製ミシンについて

履修前に、縫製ミシン各部名称は「全部・ほとんど言える」と回答した割合、縫製ミシン操作は「できる」と回答した割合を表2に示した。

縫製ミシン操作のうち、準備段階である「上糸かけ」「ボビンへの下糸巻き」「ボビンのミシンへの取付け」はいずれも94%以上と高かった。

被服のミシン縫製にかかる「返し縫い」は、いずれの開講年度の全員ができると回答した。「糸調子の調節」「縫い目長さの調節」は全体の8割弱が出来ると回答したが、開講年度によって有意な差が認められた。

表3 履修前アンケートで、ロックミシン操作の自己評価の割合

(できる／説明書を見ればできる／できない他¹⁾, 単位: %)

操作項目	本授業科目の開講年度				
	2008 n=18	2009 n=20	2010 n=23	2011 n=22	計 n=83
1. ロックミシン各部名称	0/33.3/66.7	5.0/20.0/75.0	0/8.7/91.3	4.6/22.7/72.7	2.4/20.5/77.1
2. ミシン針の取り替え	5.6/44.4/50.0	5.0/10.0/85.0	0/13.0/87.0	4.5/18.2/77.3	3.6/20.5/75.9
3. 糸かけ	0/38.9/61.1	10.0/10.0/80.0	0/21.7/78.3	4.5/27.3/68.2	3.6/24.1/72.3
4. 糸調子の調節	5.6/33.3/61.1	5.0/20.0/75.0	13.0/13.0/73.9	13.6/22.7/63.6	9.6/21.7/68.7
5. ロックミシンかけ	66.7/27.8/5.6	85.0/5.0/10.0	82.6/8.7/8.7	50.0/40.9/9.1	71.1/20.5/8.4

1) ロックミシン各部名称の回答は、全て・ほとんど言える／少し言える／言えない他

「ボタンホール縫い」ができるという回答は2.4%と著しく少なく、これは小・中・高校までの製作品に使用する場面が少なかったことが推察され、さらに大学1年次の被服製作関連授業科目で習得技術に設定していないことが影響していると言える。

一方、「ミシン針の取り替え」ができるという回答は授業前48.8%であり、授業後も64.2%にとどまった。これはミシン針が製作中に折れて交換するという経験が少なかったことも要因のひとつであると推察される。しかし、家庭科担当教師として習得しておく必要があると考えられることから、今後のミシン操作練習時に組み込んでいくこととした。

3.2.2. ロックミシン操作について

履修前のロックミシン名称について、「全部言える・ほとんど言える」「少し言える」「言えない・忘れている・やったことがない他」の結果を、ロックミシン操作は「できる」「説明書を見ればできる」「できない・やったことがない・分からない」の各グループの合計割合を表3に示した。

ロックミシンをかけることについて、「できる」回答は全体の71.1%、「説明書を見ればできる」20.5%である。縫い代を始末するロックミシンは、大学入学後のハーフパンツ製作で使用しており、本授業科目でも使用することから、説明書を見なければできないという状況は解消しておく必要がある。

ロックミシンの調整として、「ミシン針の取り替え」「糸かけ」ができるという回答は、いずれも全体の3.6%、「糸調子の調節」は9.6%であった。「説明書を見ればできる」を加えても、全体の3割程度しかロックミシンの調整ができない状

況であった。ロックミシンの取り扱いが不慣れな状況は、ミシン操作中の故障要因となり、ロックミシンの調子が悪くなった場合は調整できる学生あるいは教師に頼るしかなく、製作時間が長くなることにも繋がる。本授業科目で実際に使用する場面を想定すると、全員が「できる」あるいは「説明書を見ればできる」まで、ロックミシンの操作に習熟させることが必要である。

3.3 開講年度別シャツ・ブラウス製作によるミシン操作の習得効果

「履修後レポート」の縫製ミシン操作およびロックミシン操作について、「できる」と評価した項目に○印を付させ、その割合を表4に示した。

本授業科目の開講年度間については、カイ二乗検定を行った。また、本授業科目履修前・後のミシン操作を比較するため、履修前アンケートの選択回答肢を「できる」「できない」に再割り当てして集約し、履修前の値とした。履修後レポートと間で、対応のあるデータとしてノンパラメトリック検定(Wilcoxon 符号付順位検定)を行った。

3.3.1 開講年度別履修後の縫製ミシン操作

縫製ミシンの準備段階である「上糸かけ」「ボビンへの下糸巻き」「ボビンのミシン取り付け」は、本授業科目履修前もできていたが、履修後はほぼ全員が「できる」と回答した。

被服のミシン縫製にかかる「糸調子の調節」「縫い目長さの調節」「曲線縫い」は、履修後はいずれも9割以上となり、有意に向上した。「ボタンホール縫い」は、履修前は全くできてなかったが、履修後は全員できると回答し、著しく有意に向上した。

表4 履修後レポートで、縫製ミシンおよびロックミシン操作が「できる」と回答した割合
(単位：%)

操作項目		本授業科目の開講年度				
		2008 n=17	2009 n=19	2010 n=23	2011 n=22	計 n=81
縫製ミシン	2. ミシン針の取り替え	52.9	42.1	73.9	81.8	64.2 * ¹⁾ ** ²⁾
	3. 上糸かけ	100.0	100.0	95.7	100.0	98.8
	4. ボビンへの下糸巻き	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
	5. ボビンのミシン取り付け	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0 * ²⁾
	6. 糸調子の調節	82.4	84.2	95.7	100.0	91.4 * ²⁾
	7. 縫い目長さの調節	94.1	89.5	100.0	95.5	95.1 * ²⁾
	8. 返し縫い	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
	9. 曲線縫い	94.1	94.7	95.7	90.9	93.8 *** ²⁾
	10. ボタンホール縫い	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0 *** ²⁾
ロックミシン	2. ミシン針の取り替え	23.5	5.3	0.0	4.5	7.4 * ¹⁾
	3. 糸かけ	11.8	0.0	8.7	18.2	9.9
	4. 糸調子の調節	5.9	0.0	8.7	4.5	4.9
	5. ロックミシンかけ	94.1	84.2	91.3	95.5	91.4 ** ²⁾

1) 開講年度間の有意差 * : $p < 0.05$

2) 履修前回答(「できる・できない」集約)と履修後の有意差 *** : $p < 0.001$, ** : $p < 0.01$, * : $p < 0.05$

本授業では、ボタンホールづくりとボタン付けを課題として組み込んでおり、経験機会を提供することによる習得効果は高いと言える。

「ミシン針の取り替え」も、履修後は有意に向上していたが、全体で64.2%であった。製作中にミシン針が折れた場合は、当該学生が取り替えるように指導したが、指導者になることを考えると、ミシン針が折れるか否かにかかわらず、取り替えをする機会の設定が必要である。

3.3.2 開講年度別履修後のロックミシン操作

本授業では、ブラウス・シャツの縫い代は、ロックミシンで始末することを前提として、本縫い前にロックミシンかけの練習時間を設けて本授業担当者ができ具合を評価した。

「ミシン針の取り替え」「糸かけ」「糸調子の調節」など、ロックミシンの調整操作は、ほとんど向上していなかった。今後は、ロックミシン操作の基礎として、ロックミシン糸のかけ方や糸調子の調節を練習する時間を設定する必要がある。

一方、履修後の「ロックミシンかけ」は、全体の91.4%が「できる」と回答し、履修前に比べ優位に向上した。完成作品のロックミシンによる縫い代始末について、本授業担当者が評価すると優劣はみられたが、学生の「ロックミシンかけ」ができるようになったという自己評価は高く、多くの学生が自信に繋がったと言える。

3.4 ミシン操作習得の調査方法の検討

調査方法Ⅱでは、同一対象者に対して、大学入

学後2年間にわたって同一アンケートを「入学時(F)」, 当該授業の「履修前(B)」, 「履修後(E)」として実施し、被服製作実習を履修することによるミシン操作の習得効果について検討した。

さらに、調査項目の回答選択肢を「できる」「できない」に再割り当てして集約した結果を「履修後アンケート(Eg)」, 「履修後レポート(Rg)」として、表5および表6に示した。

入学時(F), 履修前(B), 履修後(E)の三者間、履修後(Eg), 履修後(Rg)間について、カイ二乗検定を行った。

3.4.1 ミシン操作の学習時期の効果

縫製ミシン操作について、「上糸かけ」「ボビンへの下糸巻き」を始め、ほとんどの項目で、入学時(F), 履修前(B), 履修後(E)の三者間に有意な差が認められた。中でも、「糸調子の調節」「縫い目長さの調節」「曲線縫い」は、入学時(F)と履修前(B)間に有意な差があり、1年時に学習したハーフパンツ製作実習の成果が顕著に表れたと言える。

ロックミシン操作では、「ロックミシンかけ」の三者間に有意な差が認められ、履修前(B), 履修後(E)ともに著しく向上していた。

縫製ミシンおよびロックミシンの操作を習得のために、大学において被服製作実習を履修することは重要であり、さらに製作実習を重ねることにより、「できる」割合が向上することが明らかとなった。

表5 縫製ミシン操作習得にかかる被服製作実習の履修効果

(単位：%)

操作項目	選択肢	入学時 (F) n=20	履修前 (B) n=22	履修後 (E) n=22	FBE 間 ¹⁾	FB 間 ²⁾	BE 間 ³⁾	履修後 (Eg) ⁴⁾ n=22	履修後 (Rg) ⁴⁾ n=22
1. ミシン名称	言える	15.0	45.4	50.0	*			50.0	—
	少し言える	55.0	45.5	50.0					
	言えない・他	30.0	9.1	0.0				50.0	
2. ミシン針の取り替え	できる	55.0	63.6	72.7				72.7	81.8
	説明書を見ればできる	40.0	22.7	18.2					
	できない・他	5.0	13.6	9.1				27.3	18.2
3. 上糸かけ	できる	65.0	95.5	100.0	*	*		100.0	100.0
	説明書を見ればできる	35.0	4.5	0.0					
	できない・他	0.0	0.0	0.0				0.0	
4. ボビンへの下糸巻き	できる	70.0	100.0	100.0	**	*		100.0	100.0
	説明書を見ればできる	25.0	0.0	0.0					
	できない・他	5.0	0.0	0.0				0.0	
5. ボビンのミシン取り付け	できる	70.0	86.4	100.0				100.0	100.0
	説明書を見ればできる	25.0	9.1	0.0					
	できない・他	5.0	4.5	0.0				0.0	
6. 糸調子の調節	できる	40.0	86.4	100.0	***	**		100.0	100.0
	説明書を見ればできる	45.0	13.6	0.0					
	できない・他	15.0	0.0	0.0				0.0	
7. 縫い目長さの調節	できる	35.0	90.9	90.9	***	**		95.5	95.5
	説明書を見ればできる	50.0	9.1	9.1					
	できない・他	15.0	0.0	0.0				4.5	4.5
8. 返し縫い	できる	80.0	100.0	100.0	**	*		100.0	100.0
	説明書を見ればできる	20.0	0.0	0.0					
	できない・他	0.0	0.0	0.0				0.0	
9. 曲線縫い	できる	10.0	68.2	81.8	***	**		90.9	90.9
	説明書を見ればできる	35.0	9.1	18.2					
	できない・他	55.0	22.7	0.0				9.1	9.1
10. ボタンホール縫い	できる	10.0	4.5	100.0	***		***	100.0	100.0
	説明書を見ればできる	30.0	9.1	0.0					
	できない・他	60.0	86.4	0.0				0.0	

1) 入学時・本授業履修前・履修後の3者間比較 有意差 ***: $p<0.001$, **: $p<0.01$, *: $p<0.05$

2) 入学時・本授業履修前の2者間比較

3) 本授業履修前・履修後の2者間比較

4) 履修前回答を「できる」「できない」に集約。

3.4.2 調査方法の検討

受講生のミシン操作状況を把握するため、同一対象者に対して詳細な履修前アンケート実施が望ましいが、2年間にわたって同一アンケートを実施する際に、入学直後のアンケート調査設定は難しく、時間的にも作業的にも、教員と受講生の両方に負担である。3.3章で述べた「履修後レポート」について、「履修後アンケート(E)」と同等の有効性が明らかになれば、被服製作によるミシン操作の習得効果を把握する資料として活用できると考えた。

履修前アンケート(B)と履修後アンケート(E)間の縫製ミシン操作の向上については、4年間の開講年度別の「履修前アンケート」と「履修後レポート」を比較して得られた成果と同様の結

果であった。

回答を「できる」「できない」の2択に再割り当てした履修後アンケート(Eg)の数値は、再割り当て前の履修後アンケート(E)の「縫い目長さの調節」「曲線縫い」以外は一致した。

このことは、受講生が「できる」と回答する場合は、「説明書を見ればできる」という評価は含まれないことを示している。

また、履修後レポート(Rg)と履修後アンケート(Eg)の比較では、「ミシン針の取り替え」「ロックミシン針の取り替え」「ロックミシンの糸調子の調節」「ロックミシンかけ」の数値に相違は見られたが、有意な差ではなかった。

このことから、「履修後レポート」は履修後アンケート(E)と同等のミシン操作の習得効果を

表6 ロックミシン操作習得にかかる被服製作実習の履修効果

(単位：%)

操作項目		入学時 (F) n=20	本授業 履修前 (B) n=22	本授業 履修後 (E) n=22	FBE 間 ¹⁾	FB 間 ²⁾	BE 間 ³⁾	本授業 履修後 (Eg) ⁴⁾ n=22	本授業 履修後 (Rg) ⁴⁾ n=22
1. ロックミシン名称	言える	0.0	4.5	4.5				4.5	—
	少し言える	25.0	22.7	45.5					
	言えない・他	75.0	72.7	50.0				95.5	—
2. ロックミシン針の取り 替え	できる	5.0	4.5	9.1				9.1	4.5
	説明書を見ればできる	25.0	18.2	18.2				90.9	95.5
	できない・他	70.0	77.3	72.7					
3. 糸かけ	できる	10.0	4.5	18.2				18.2	18.2
	説明書を見ればできる	20.0	27.3	13.6				81.8	81.2
	できない・他	70.0	68.2	68.2					
4. 糸調子の調節	できる	0.0	13.6	13.6				13.6	4.5
	説明書を見ればできる	25.0	22.7	18.2				86.4	95.5
	できない・他	75.0	63.7	68.2					
5. ロックミシンかけ	できる	5.0	50.0	100.0	***	***	**	100.0	95.5
	説明書を見ればできる	20.0	40.9	0.0				0.0	4.5
	できない・他	75.0	9.1	0.0					

1) 入学時・本授業履修前・履修後の3者間比較 有意差 ***: p<0.001, **: p<0.01, *: p<0.05

2) 入学時・本授業履修前の2者間比較

3) 本授業履修前・履修後の2者間比較

4) 回答を「できる」「できない」に集約。

表7 縫製ミシン操作の指導およびシャツ・ブラウス作品の自己評価

(単位：%)

項目		本授業科目の開講年度				
		2008 n=17	2009 n=19	2010 n=23	2011 n=22	計 n=81
ミシン操作の初心者支援・アドバイス	1. できる	52.9	47.4	47.8	59.1	51.9
	5. すばらしい	17.6	21.1	8.7	4.5	12.3
	4.	52.9	42.1	60.9	50.0	51.9
	3.	29.4	36.8	21.7	36.4	30.9
	2.	0.0	0.0	8.7	9.1	4.9
出来映え 自己評価	1. あまり良くない	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	5. 大満足	41.2	42.1	47.8	27.3	39.5
	4.	41.2	31.6	43.5	40.9	39.5
	3.	17.6	26.3	8.7	22.7	18.5
	2.	0.0	0.0	0.0	9.1	2.5
作品の満足度	1. 不満足	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

比較する資料として、製作後の自己採点項目が活用できると言える。さらに、この自己採点項目は、ミシン操作の習得成果を把握する資料として有効であることを再確認することができた。

3.5 ミシン操作の指導および製作品の自己評価

出来映えの評価は、4以上の好評価は4年間全体で64.2%、作品の満足度は4以上の好評価が79.0%であり、今回の製作意欲について記述が多かった。作品を完成することにより、出来映え自己評価が低い場合も、満足度は高いと言える。

ミシン操作の初心者支援・アドバイスについて、「履修後レポート」の自己評価では、4年間全体で51.9%が出来ると回答した。大学入学前はミシン縫製による被服製作実習経験に個人差が多く、縫製技術もできる項目が少ないが、大学入学後2作品を製作するによってミシン操作技術は向上したと言える。さらに半数以上が、他者にアドバイスできるという自信をもつまでになっていた。ミシン操作指導者として、多くの受講生が自信を深めるようにすることが今後の課題である。

4. まとめ

初等教員養成課程において被服製作実習によるミシン縫製技術の習得効果を把握するため、「被服製作実習に関するアンケート」および「シャツ・ブラウス製作実習レポート」の自己採点部分を資料として検討した。

その結果、次のことが明らかとなった。

1. 縫製ミシンおよびロックミシン操作技術の習得について、シャツ・ブラウス製作実習後の自己評価は、「ボビンへの下糸巻き」「ボビンのミシンへの取り付け」「返し縫い」「ボタンホール縫い」が全員できると回答した。「曲線縫い」と「ボタンホール縫い」「ロックミシンがけ」の習得効果が高い。他者への支援・アドバイスも半数以上が自信をもった。

両ミシン操作技術は、入学後に初めて実習したハーフパンツ製作により顕著に高くなり、本研究対象の製作実習を重ねることにより、さらに向上したと言える。

2. 縫製ミシンおよびロックミシン操作技術の習得効果は、被服製作実習に関する事前アンケートおよび製作実習後のレポートにおいて操作項目を加えることにより、把握することができ

た。さらに製作実習後の成果は、できるミシン操作項目を全て回答することにより、各操作項目の回答選択肢の中から一つ選択することと同等の評価ができることが明らかとなった。

本研究の一部は、日本家政学会九州支部第58回大会研究発表会において発表した。

引用文献

- 1) 文部科学省, 小学校学習指導要領解説 家庭編, p.37~48, 東洋館出版社 (2008)
- 2) 文部科学省, 中学校学習指導要領解説 家庭編, p.58~65, 教育図書 (2008)
- 3) 長山芳子, 大学生の小・中・高校時における被服製作経験とミシン実習後の変容—初等教員養成のためのハンカチ袋作り授業効果, 福岡教育大学紀要, 第60号, 第5分冊, 215-221 (2011)
- 4) 長山芳子, 初等教員養成課程のための被服製作教育—「小専家庭」におけるミシン縫製実習授業の改善—, 福岡教育大学教育学部附属教育実践総合センター FD 研究報告書 (9), 第1分冊, 45-52 (2008)